

### 平均滞在日数

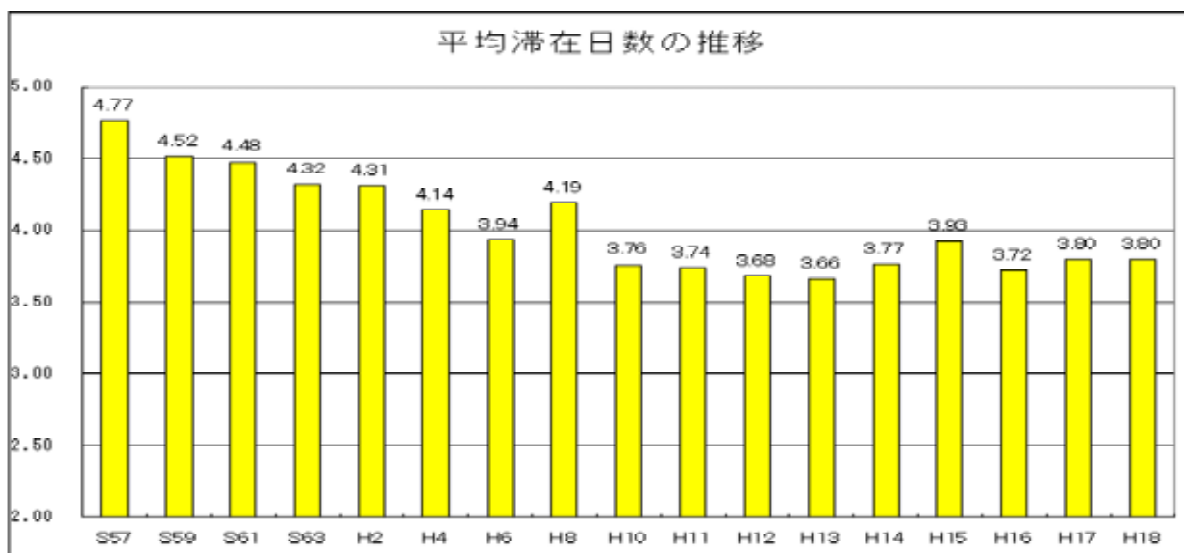
本県を訪れる観光客の平均滞在日数は横ばいの傾向にある。平成18年度は3.80日であった。

滞在日数別の内訳は、以下のとおりである。2泊3日の比率が最も高く、41.3%となっている。

平成18年度

・日帰り	1.2%	(平成15年度	1.0%)
・1泊2日	12.1%	(同	9.7%)
・2泊3日	41.3%	(同	40.6%)
・3泊4日	29.3%	(同	33.4%)
・4泊5日	9.2%	(同	8.9%)
・5泊以上	6.9%	(同	6.4%)

体験滞在型観光メニューが増えてきており、また、離島観光の人气も高まってきているが、平均滞在日数は伸び悩んでいる。平均滞在日数を伸ばすことは、観光客一人あたり県内消費額を伸ばすことにもつながる。そのため、これまでのエコツーリズムの推進等のメニューに加え、アフターコンベンションの充実等、新たなメニューの開発が望まれる。



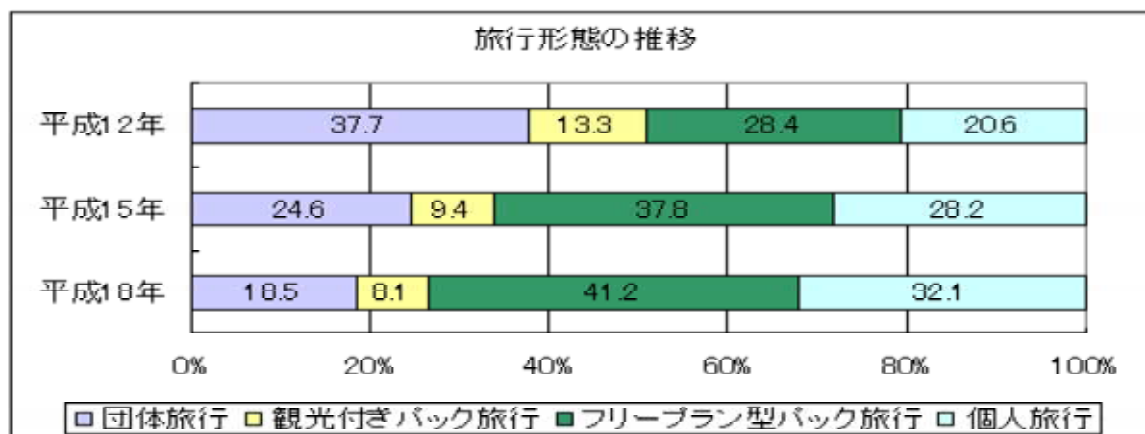
資料：観光統計実態調査

### 旅行形態

リピーター率の増加に伴い、「団体旅行、及び観光付きパック旅行」(添乗員付きでスケジュールのほぼ決まった旅行形態)が減少し、「フリープラン型パック旅行、

及び個人旅行」(自由にスケジュールなどが組める旅行形態)が増加している。要因としては、旅行目的や旅行商品の多様化、旅行商品流通経路の高度化等もあると思われる。

「フリープラン型パック旅行、及び個人旅行」は、平成18年においては73.3%となっている。



資料：観光統計実態調査

### 旅行目的の推移

平成18年度の本県における活動内容は、年間を通してみると、「観光地めぐり」などの周遊型観光が最も多くなっているものの、夏場については、「海水浴・マリンスポーツ」が一番多くなっている。また、「ショッピング」、「沖縄料理を楽しむ」及び「保養・休養」の活動も、選ばれる比率が高くなっている。

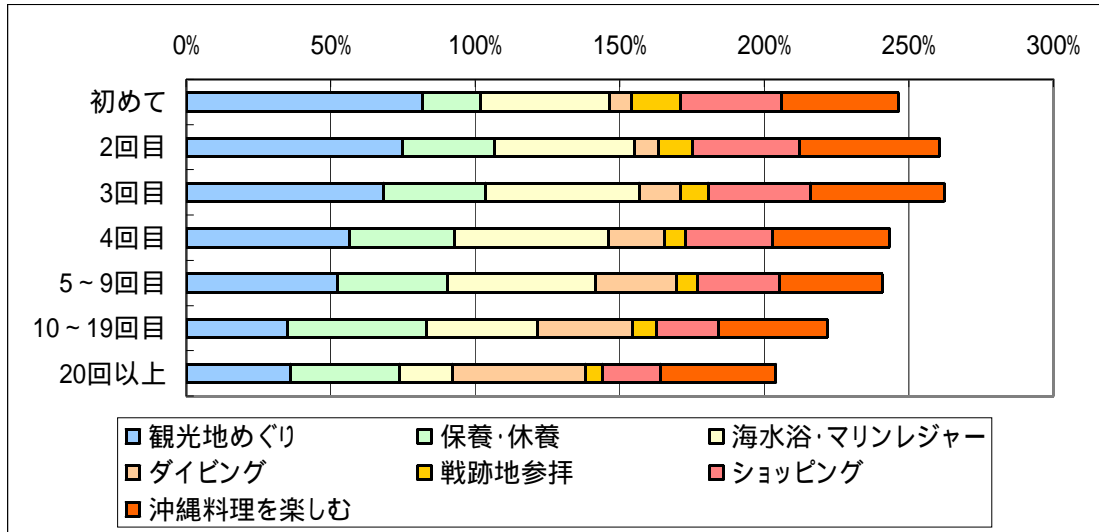
#### 旅行内容別シェアの変化

	平成12年	平成15年	平成18年
観光地めぐり	73.7	72.1	68.4
戦跡地参拝	19.8	16.3	12.2
海水浴・マリンスポーツ	28.5	34.1	27.4
マダラインビ・グヤ	17.1	8.7	7.9
保養・休養	22.2	17.6	16.8
スゴバルフ	-	-	3.8
釣り・キャンプ	4.8	4.1	4.4
キャンプ	2.9	1.7	1.9
エッコツピ	0.8	0.7	0.6
沖縄料理を楽しむ	33.0	44.4	33.4
新婚旅行	-	1.3	1.5
ウエディング	-	1.3	2.1
会議・研修	9.8	6.6	6.4
イベント	4.0	4.0	4.6
仕事	8.0	11.0	11.6
スポーツ	1.8	1.5	1.7
帰省	11.0	6.3	6.6
その他	3.9	4.9	3.6

複数回答

資料：観光統計実態調査

また、リピート回数が増えるにつれ、ダイビング客の割合が高くなっている。



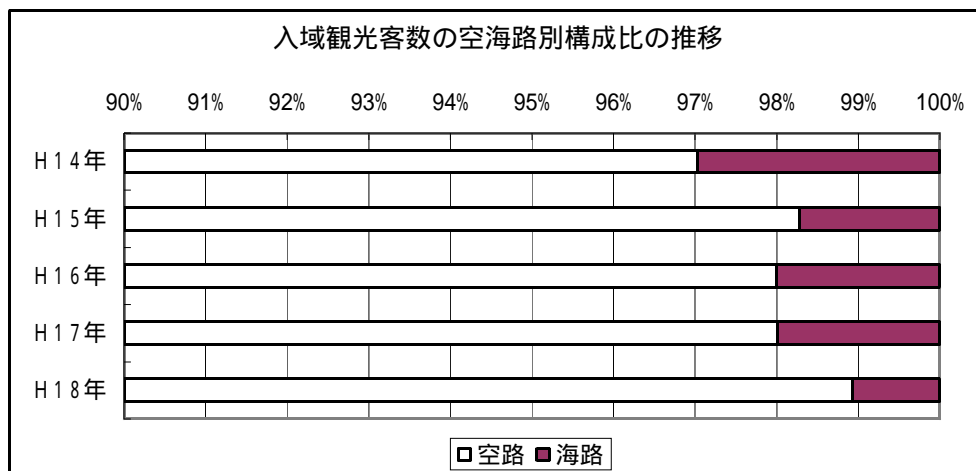
資料：平成17年度観光統計実態調査

## ウ 航空路線

### 観光客が本県を訪れる際の交通手段

観光客が本県を訪れる際に利用している交通手段としては、空路が圧倒的に多く、航空路線の拡充や航空運賃の低減などにより、さらに空路の占める割合が増加傾向にある。

平成18年においては、空路による入域観光客数は全体の98.9%に達している。

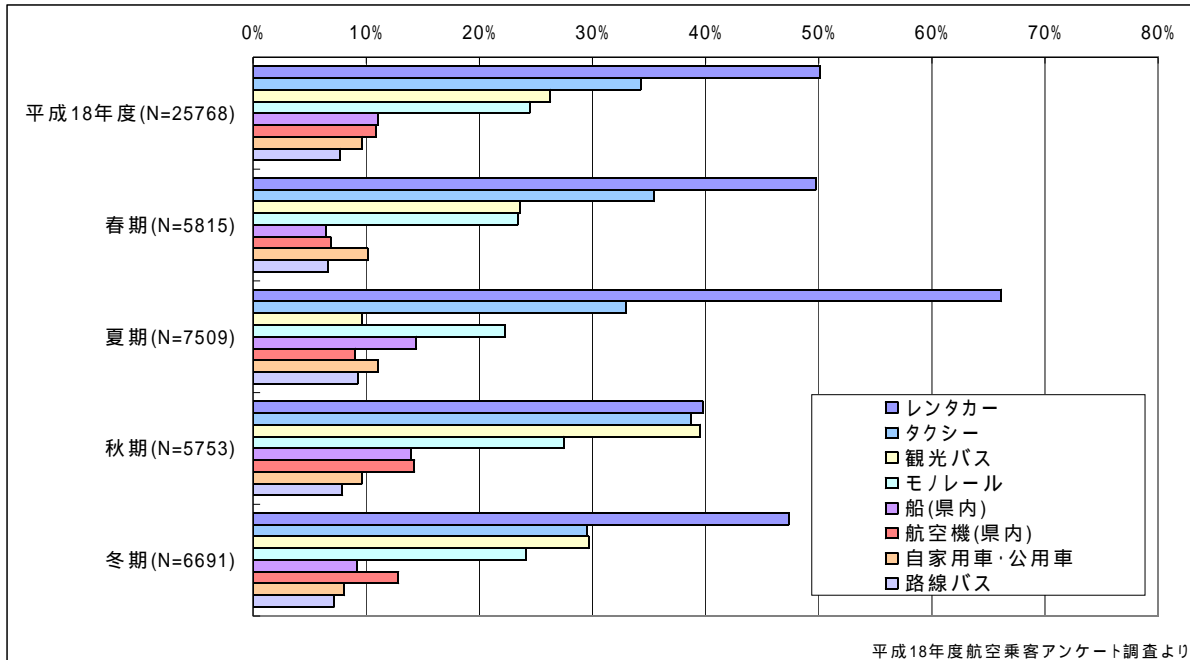


資料：沖縄県観光要覧



## エ 県内陸上交通機関

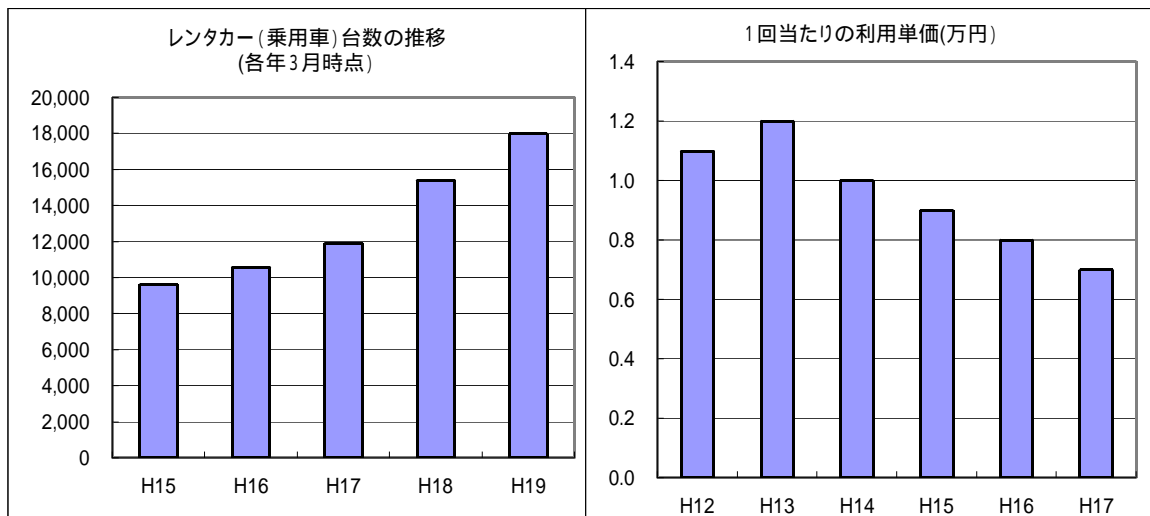
平成18年度に観光客が滞在中に利用した交通手段としては、レンタカーが約半数に達しているが、路線バスの利用率は低くなっている。また、観光バスの利用率は季節変動が大きくなっている。



複数回答

## レンタカー

本県を訪れる観光客が最も利用している交通機関がレンタカーであり、登録台数などは、年々増加傾向にある。しかし、利用単価については、依然、減少傾向にある。



資料：陸運事務所輸送課